

令和5年

火災・救急・救助等の概要

岳南広域消防本部

# 目 次

第 1 火災の概要	P 1
1 火災の概要と傾向	
2 死傷者等	
3 出火原因と対策	
第 1-1 表 火災の状況	P 2
第 1-2 表 火災の原因	
第 2 救急の概要	P 3
1 救急の概要と傾向	
2 事故の種別	
3 傷病者の年齢	
4 傷病程度	
5 救急の課題	
第 2-1 表 救急出動件数及び搬送人員	P 4
第 2-1 図 過去 10 年間の救急出動件数及び搬送人員の推移	
第 2-2 表 事故種別搬送人員	
第 2-3 表 年齢区分別搬送人員	
第 2-4 表 傷病程度別搬送人員	
第 3 救助の概要	P 5
1 救助の概要と傾向	
2 事故の種別	
3 救助の現状	
第 3-1 表 事故種別救助出動件数及び救助人員	P 6
第 3-1 図 過去 6 年間の救助出動件数及び救助人員の推移	
第 4 危険物施設（漏えい）事故の概要	P 7
1 事故の概要	
2 事故の発生原因	
3 事故対策・その他	
第 4-1 表 危険物施設別事故発生件数	P 8
第 4-2 表 事故の原因	
第 4-3 表 危険物の流出量	
第 4-4 表 流出した危険物の品名	

## ※補足説明

- ① 期間は令和 5 年 1 月 1 日～令和 5 年 12 月 31 日となります。
- ② 表内の△は負数を表します。

# 第1 火災の概要

## 1 火災の概要と傾向

火災は1件の増加

- ・ 発生した火災は26件で、前年比1件増加しました。
- ・ 建物火災は9件で前年比1件減少、林野火災は1件で前年比1件増加、車両火災は4件で前年比4件増加、その他火災は12件で前年比3件減少となりました。

※ その他の火災：火災の分類上、「建物」「林野」「車両」「船舶」「航空機」のいずれにも分類されない火災

## 2 死傷者等

火災による死者は1人(建物火災)

- ・ 火災による死者数は1人で前年と同数、負傷者数は1人で前年比2名減少しました。

## 3 出火原因と対策

原因のトップは「たき火」

- ・ 出火原因は「たき火」9件(35%)、「不明・調査中」4件(15%)、「その他電気装置」2件(8%)の順となりました。
- ・ たき火は毎年、出火原因の上位に位置しています。  
風が強い日や空気が乾燥している日には、たき火を控えることが重要です。また、たき火を行う際には、消火用の水などを必ず用意し、火が完全に消えるまでその場を離れないようにすることが求められます。

第 1 - 1 表 火災の状況

区 分	年	単 位	令和 5 年	令和 4 年	増減
			(A)	(B)	(A) - (B) (C)
出 火 件 数		件	26	25	1
建 物		〃	9	10	△ 1
林 野		〃	1		1
車 両		〃	4		4
船 舶・航空機		〃			
そ の 他		〃	12	15	△ 3
死 者		人	1	1	0
負 傷 者		〃	1	3	△ 2
出 火 率 ※1			5.02	4.77	0.25

管轄人口：51,826人（令和5年4月1日現在）  
52,423人（令和4年4月1日現在）

※1 出火率：人口1万人あたりの出火件数（出火件数÷人口×10,000）

第 1 - 2 表 火災の原因

原因	件数	原因	件数	原因	件数
たき火	9	ごみ焼却炉	1	電気プラグ	1
不明、調査中	4	ストーブ	1	ブレーキライニング	1
その他電気装置	2	マッチ	1	溶接機・溶断機	1
こんろ・バーナー	1	内燃機関	1	制御盤	1
再燃	1	排気管	1		
小計	17	小計	5	小計	4
合計	26				

## 第2 救急の概要

### 1 救急の概要と傾向

1日平均8.4回出動しています。

組合発足(平成7年)以来初めて救急出動3,000件を超えました。

- ・ 救急出動件数は3,062件で前年比282件増加、搬送人員は2,814人で前年比200人増加しました。
- ・ 新型コロナウイルスの感染症の危険度が下がり、人々の生活がコロナウイルスの大流行前の状態に戻った結果、救急対応の必要性が増えています。実際、現在の救急事案の数は新型コロナウイルス発生前よりも増えています。これは、人々が普通の生活を再開したことで起こる現象と考えられます。
- ・ 前年と比較して、急病が170件、一般的なケガが88件、交通事故が28件増えました。急病の中でも、肺炎などの呼吸器系の疾患が特に多いです。また、ケガや交通事故の増加は、人々の活動が活発になったことが原因と考えられます。

### 2 事故の種別

約7割は急病でした。

- ・ 急病1,913件(68%)、ケガ630件(22%)、交通事故は134件(5%)となり、例年と変わらず3種別で9割以上を占めています。

### 3 傷病者の年齢

約7割は65歳以上の高齢者でした。

- ・ 高齢者は1,890人で前年比91人増加しました。

### 4 傷病程度

搬送人員の半数が入院を必要としない軽症者でした。

- ・ 搬送人員2,814人うち、軽症は50%、中等症は約35%、重症は約12%、死亡は約3%でした。

※ 死亡: 初診時に死亡が確認されたもの。

重症: 3週間以上の入院を必要とするもの。

中等症: 入院を要し重症に至らないもの。

軽症: 入院を必要としないもの。

### 5 救急の課題

救急車を必要な人が、必要な時に安心して利用できるよう、適正利用を推進する。

救急が増加し、救急車の適正利用は、救急の重要な課題です。軽症者による不適切な利用が問題となることがあります。また、「自分の状態が緊急かどうか判断できない」、「救急車を呼ぶと近所迷惑になるのではないか」といった理由で救急車要請をためらうこともあります。

救急隊員としては、もっと早く119番に通報してほしい場面もあります。

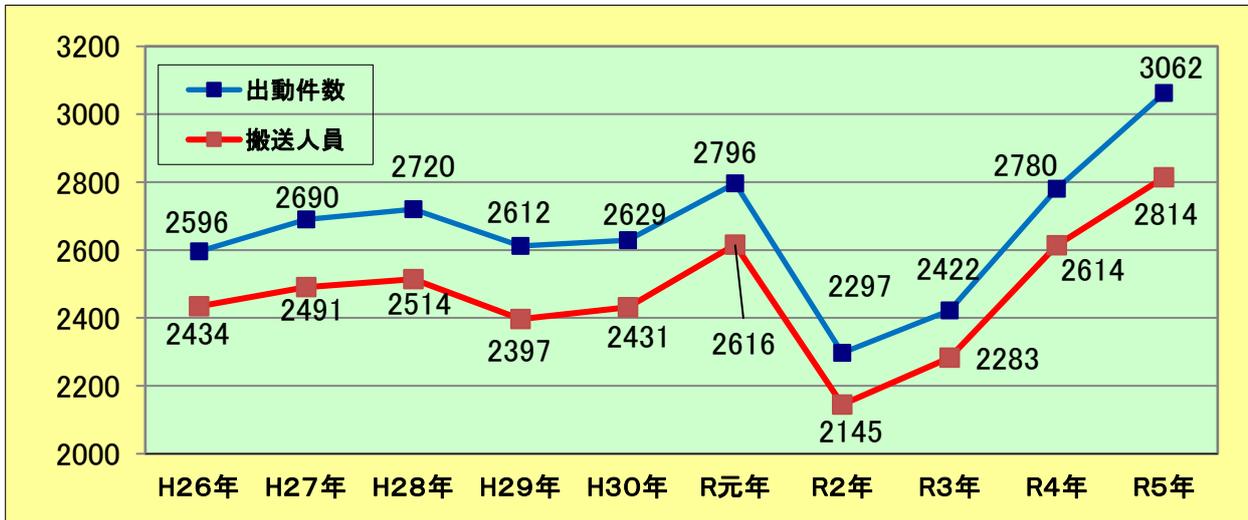
迷ったときは長野県が開設した救急電話相談窓口を活用してください。局番なしで、成人は「#7119」、小児は「#8000」に電話してください。

これにより、救急車が必要な人々に迅速に対応でき、救急車の適正利用が推進されます。これは、救急の増加に対応するための重要なステップです。救急車を必要とするすべての人々が適切なケアを受けられるよう救急電話相談窓口の周知をすすめます。

第2-1表 救急出動件数及び搬送人員

区分 年	救急出動件数			搬送人員		
	合計	中野消防署	山ノ内消防署	合計	中野消防署	山ノ内消防署
令和4年	2,780	1,872	908	2,614	1,769	845
令和5年	3,062	1,973	1,089	2,814	1,825	989
増 減	282	101	181	200	56	144

第2-1図 過去10年間の救急出動件数及び搬送人員の推移



第2-2表 事故種別搬送人員

年	事故種別					
	急病	ケガ	交通事故	労働災害	その他	合計
令和4年	1,794	549	119	36	116	2,614
令和5年	1,913	630	134	28	109	2,814
増 減	119	81	15	△ 8	△ 7	200

第2-3表 年齢区分別搬送人員

年	年齢区分					
	高齢者	成人	少年	乳幼児	新生児	合計
令和4年	1,799	658	93	61	3	2,614
令和5年	1,890	705	118	95	6	2,814
増 減	91	47	25	34	3	200

※ 高齢者: 65歳以上 成人: 満18歳以上65歳未満 少年: 満7歳以上18歳未満  
乳幼児: 生後28日以上7歳未満 乳幼児: 生後28日未満

第2-4表 傷病程度別搬送人員

年	傷病程度					
	軽症	中等症	重症	死亡	その他	合計
令和4年	1,278	877	339	120	0	2,614
令和5年	1,392	971	348	93	10	2,814
増 減	114	94	9	△ 27	10	200

## 第3 救助の概要

### 1 救助の概要と傾向

救助出動件数、救助人員ともに増加しました。

- ・ 救助出動件数は19件で前年比2件増加、救助人員は13人で前年比5人増加しました。
- ・ 救助出動件数は令和元年、令和2年の32件と比較すると減少傾向です。

### 2 事故の種別

救助出動の大半が交通事故によるものです。

- ・ 救助出動19件のうち交通事故は11件(58%)、その他の事故は6件(32%)、水難事故は1件(5%)の順となりました。

### 3 救助の現状

各種災害における対応

近年、地震や台風、局地的な豪雨といった自然災害が全国で頻繁に発生しています。

これらの災害は一度発生すると、その被害は大規模になることが多いです。そのため、近隣の消防機関や他の機関の協力、さらには全国からの応援が必要となることがあります。私たちは、今後も土砂災害などが発生する可能性を考慮し、現状に即した様々な災害対応訓練を行い、常に備えています。

自動車交通事故の傾向と対応

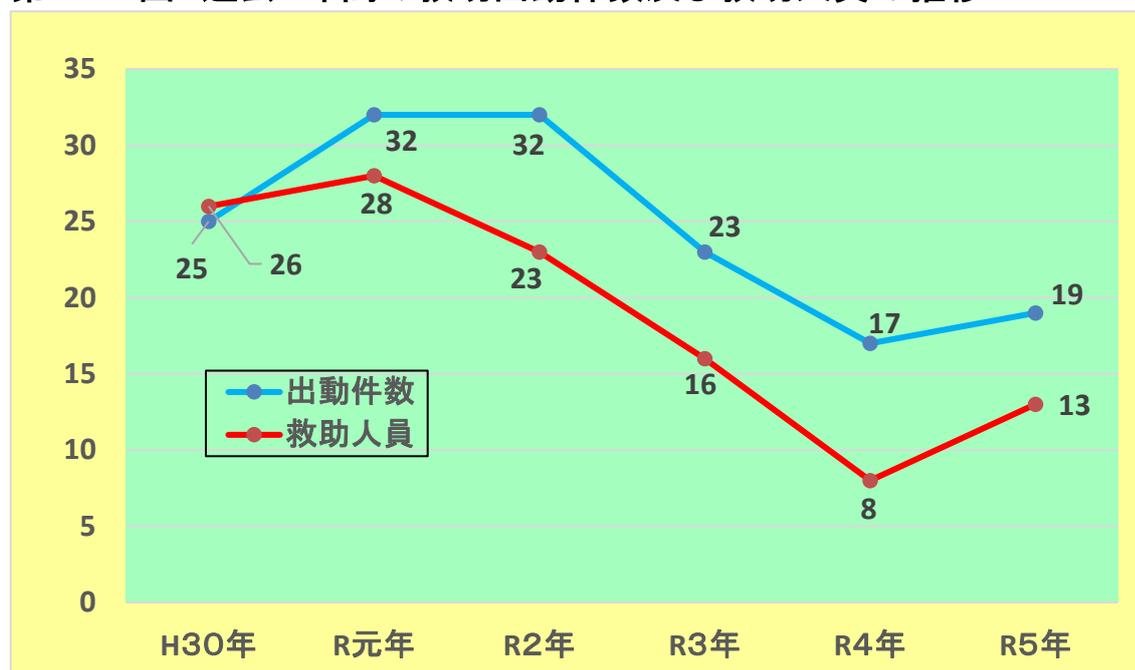
近年、自動車に関係する交通事故は、出動と救助人員の数は減少傾向にあります。これは自動車の安全性能が急速に進歩した結果と考えられます。

自動車メーカーからは様々な車種、例えば電気自動車やハイブリッド車などが増えており、それらの車両構造を理解することはもちろん、救助技術の強化は救助活動にとって必要不可欠です。そのため、私たちは安全で確実かつ迅速な救助活動を実現するために、日々訓練を行っています。

第3-1表 事故種別救助出動件数及び救助人員

事故種別	令和5年		令和4年		増減	
	出動件数	救助人員	出動件数	救助人員	出動件数	救助人員
火災（建物以外）						
火災（建物）	1	0			1	0
交通事故（高速道路）						
交通事故（高速以外の道路）	11	7	12	6	△1	1
水難事故	1	1			1	1
機械による事故						
建物等による事故			1	0	△1	0
その他の事故	6	5	4	2	2	3
合計	19	13	17	8	2	5

第3-1図 過去6年間の救助出動件数及び救助人員の推移



## 第4 危険物施設(漏えい)事故の概要

### 1 事故の概要

危険物施設事故は4件増加しました。

- ・ 事故件数は9件で前年比4件増加しました。  
許可施設は4件、少量危険物施設は4件、その他の施設は1件の事故が発生しました。
- ・ 許可施設から、灯油2,000リットルが漏れ出した事例が、漏えい事故の中で最も大規模なものです。

※ 許 可 施 設 : 指定数量(ガソリン200ℓ、灯油1,000ℓ等)以上の危険物を貯蔵し取扱う施設

少量危険物施設: 指定数量の1/5以上指定数量未満の危険物を貯蔵し取扱う施設

その他の施設: 許可施設、少量危険物施設以外のもの

### 2 事故の発生原因

配管の腐食・疲労・劣化等の事故が多い。

- ・ 配管の腐食・疲労・劣化等をはじめとした物的要因による漏えい事故が増加しました。
- ・ 危険物の取り扱いなどに注意することで防げる人的要因の漏えい事故が増加しました。

### 3 事故対策・その他

日頃の定期的な点検を習慣にする。また、危険物の取扱いは見える場所で管理する。

- ・ 軽油や灯油などの配管から漏れる事例が多く見られます。これらの配管は、普段は目立たない場所にあることが多いです。このような漏れは火災のリスクを持ち、水路に流れ込むと環境への影響も心配されます。灯油や重油などの燃料を保管・取扱う施設では、定期的に見回り適切な管理が必要となります。
- ・ 人的要因による危険物の流出事故も増えていきます。管理が不十分であったり、危険物の詰め替え時にその場を離れてしまうといった行為が原因となっています。例えば、危険物の詰め替え中に一時的に作業場を離れると、予期せぬあふれが発生し、それが火災の原因となることもあります。また、管理が不十分な場合、危険物の取り扱いが適切でなくなり、結果として流出事故を引き起こす可能性があります。危険物を取り扱う全ての人々に対して、適切な管理と注意深い作業が求められます。
- ・ 危険物施設の設置には許可が必要です。また、危険物施設の位置や構造、設備を変更する際にも変更許可が必要です。
- ・ 危険物施設を無許可で変更すると、使用停止命令や許可取消の措置が取られることがあります。

第4-1表 危険物施設別事故発生件数

危険物施設	年	令和5年	令和4年	増減
許可施設		4	1	3
少量危険物施設		4	3	1
その他施設		1	1	0
合計		9	5	4

第4-2表 事故の原因

事故原因	年	令和5年	令和4年	増減
人的要因	誤操作	1		1
	確認不十分			
	監視不十分	2	1	1
	管理不十分	1		1
	不作為			
	悪戯			
	その他	1		1
	小計	5	1	4
物的要因	腐食・疲労・劣化等	3	2	1
	破損		1	△1
	施工不良			
	故障	1		1
	設計不良			
	小計	4	3	1
その他	交通事故		1	△1
	地震災害等			
	調査中			
	不明			
	小計		1	△1
合計		9	5	4

第4-3表 危険物の流出量

流出量	100ℓ未満	100ℓ以上 500ℓ未満	500ℓ以上 1,000ℓ未満	1,000ℓ以上	不明
件数		5		1	3

第4-4表 流出した危険物の品名

品名	ガソリン	灯油	軽油	重油	その他
件数		3		5	1